

FUJI SABO通信

ふじあざみ

発行
建設省中部地方建設局
富士砂防工事事務所
富士宮市三園平1100
電話0544(27)5221
<http://www.cb.moc.go.jp/fujisabo/>

富士山火山防災シンポジウム(山梨県) 火山防災講演会(静岡県)が開催される

今年是有珠山、三宅島の噴火などに伴い火山災害へ強い関心が高まっています。活火山富士山の現状を知り、防災対策を考える「富士山火山防災シンポジウム」(主催：山梨県、全国治水砂防協会山梨支部、静岡県、富士砂防工事事務所)が、11月6日富士吉田市で開催されました。昨年10月富士宮市で初めて開催され、今回は主として山梨県の富士山周辺の自治体の防災担当者など、450名が参加しました。

また翌7日には、シンポジウムにお招きした北大有珠火山観測所長 岡田弘教授らを講師に、「火山防災講演会」(主催：静岡県、全国治水砂防協会静岡支部、富士砂防工事事務所)が静岡市で開催され360名が参加しました。

CONTENTS

富士山火山防災シンポジウム・火山防災講演会が開催される…1
 富士山火山防災シンポジウム…2
 「ぐるっと歩こう360度」実施…4
 左下がりの山腹を見つめて22km…5
 今年完成した砂防施設……………6
 土石流から地域を守る
 土石流を監視する……………7
 富士砂防ニュース……………8
 キャンプ砂防2000in富士山・狩野川
 富士山大沢崩れと御中道見学会
 大沢扇状地クイズウォーク……9
 地域から、世界から来訪…………10
 第5回富士山への手紙・絵コンクール…11
 30周年シンポジウムを開催します…12
 速報 富士山大沢川で土石流発生



- 日 時 平成12年11月6日(月) 10:00~14:00
- 場 所 ホテル鐘山苑 ガーデンホール (富士吉田市)
- 講演者・パネリスト
- 荒 牧 重 雄 (東京大学名誉教授)
- 岡 田 弘 (北海道大学大学院理学研究科教授)
- 上 杉 陽 (都留文科大学教授)
- 武 川 勉 (富士吉田市市長)
- 小佐野 常 夫 (河口湖町長)
- 田 鍋 敏 也 (北海道壮瞥町企画調整課長)
- 高 梨 和 行 (山梨県土木部長)



- 日 時 平成12年11月7日(火) 13:00~16:15
- 場 所 しずぎんホールユーフォニア (静岡市)
- 講演者 岡 田 弘 (北海道大学大学院理学研究科教授)
- 小 山 真 人 (静岡大学教育学部助教授)



▲三宅島の噴火の状況

富士山火山防災

基調講演では、今年3月の有珠山の噴火対策にあたった岡田教授は、地元住民や大学からの火山噴火情報が自治体、北海道庁、国やマスコミを含み、火山防災に関わる避難のための情報伝達がうまく機能した例を紹介しました。また、荒牧教授は火山災害の予測や心構えの難しさを述べる一方、日本は世界的に火山災害予想図（ハザードマップ）の作成率の低いことを指摘し、影響の大きい富士火山の早期作成を訴えました。



次いで、コーディネーター荒牧教授のもと、パネルディスカッションが行われました。

武川市長は、「富士山が噴火することの可能性を議論すること自体タブー視されていた。隔世の感がある」と述べ、小佐野町長は「年間770万の観光客が訪れていますので、過日、観光経営者に避難誘導を確認しました」とし、「住民に啓蒙を図り、ハザードマップづくりは、県を中心に市町村の独自性を加え防災計画を策定



▲中日新聞 平成12年11月8日(木)朝刊

火山防災講演会

① 「自然災害の軽減を求めて

—有珠山や内外の噴火予知から学ぶ— 岡田 弘氏

今回の有珠山噴火において、直前の現象と研究機関や行政の対応を時系列的に解説し、人的被害をゼロに抑えることができた要因について述べた。結論として観測と同様に、得られた情報をどう伝えるかが重要で、住民が正確に理解し、受け入れられる平素からの活動が大切。特に、ハザードマップが、火山防災における有効性を、インドネシアを事例に具体的に紹介した。

② 「静岡県周辺の火山防災の現状と問題点」 小山真人氏

県内の火山とその特徴を紹介し、ハザードマップの未整備に伴う問題点を指摘した。観光への影響を考えるあまり、火山噴火の歴史や火山災害の発生した過去を封印するのではなく、むしろ積極的に取り入れるべきと力説し、具体的な事例として、フランスの火山地帯における野外博物館、プレー火山で23,000人が亡くなった災害跡を観光に生かしている例を紹介し、火山の自然の恵みと自然への理解を得られる観光のありかたを模索すべきと提案した。

シンポジウム

したい。町としての自立防災組織の確立が必要」との認識を示しました。有珠山のふもとの壮瞥町の田鍋課長は、昭和52年噴火後の静穏期のハザードマップの作成から噴火までの町の取り組みを紹介し、観光へのマイナスイメージや土地価格の下落などが懸念されたが、積極的に情報開示していく姿勢が大切だと話され、また、今回の噴火口等を災害学習の場とする新しい防災観光地の構想を紹介しました。上杉教授は、富士山周辺の地理的自然環境から火山の長所や欠点をもっと理解する必要性を強調しました。高梨部長は有珠山、三宅島の例からもハザードマップの整備は必要不可欠とし、周辺自治体の協力や住民の理解を得ながら公表を目指すとなりました。

今回、「火山」に抵抗感が強い山梨で開催され、事前の周知と準備の必要が共通の認識となった点が非常に大きな成果となりました。



減災に向けて各パネラーからいくつかの提案がされました。

- ①300年近く噴火していない富士山は、活火山として住民意識が希薄になっている。
- ②火山観測と警戒体制の両輪があって減災が可能で、専門家と行政の緊密な連携が必要。また、防災体制の確立には山梨・静岡両県の協力が欠かせない。
- ③富士山の火山噴火の監視や研究者の必要性。
- ④火山噴火に関する防災計画書策定、特にハザードマップの作成が急務。
- ⑤地域住民の防災意識の向上と情報の開示。
- ⑥火山噴火後の緊急避難・支援のための交通網の確保などの具体策の必要性。

有珠山視察記

10月17～19日に、花岡所長、中村技官、安藤技官は有珠山の噴火対策を現地視察しました。

洞爺湖温泉街北西の西山川と虻田町板谷川を中心に、地殻変動、噴石、降灰及び土石流による被災を、北海道庁及び北海道開発局の担当職員の案内で、踏査しました。

新たに生まれた噴火口を間近に、昭和52年の噴火後、木の実団地を移転して建設した西山川遊砂地の中に出現したK-B火口と、リモコン重機による除石工事が印象的でした。



▲金比羅山麓
K-B火口



▲地殻変動により発生した地溝。国道が階段状になっている。〈泉地区〉

「ぐるっと歩こう360度」実施

—— 貫田宗男さんと学ぶ富士山の自然と植生

左下がりの山腹をみつめて22km



9月30日(土)、10月1日(日)、富士山直轄砂防30周年検討委員会、富士山御中道「ぐるっと歩こう360度」を、登山家貫田宗男氏を塾長に、富士宮山岳会の協力を

得て昨年ひきつづき開校しました。防災、森林、環境に関わる研究者・行政担当者・NPOをはじめ、富士山に関わる有識者などを招き、スタッフを含めた総勢98名が参加しました。

「御中道」のルートは、崩壊や落石が激しい「大沢崩れ」と「天の浮橋」で寸断されていますが、特別に渡れるように施し、踏み跡のないルートを確認し、山岳会の先導のもと、富士宮口五合目から時計回りに、スバルライン四合目の奥庭荘に1泊し、2日目は、須走口登山道の六合目、宝永火口を通過して富士宮口五合目に戻り「御中道」の踏査を行いました。



主 旨

富士山の各溪流は、土石流や雪代（ゆきしろ）が頻繁に起こり、過去には火山活動による広域的で激甚な被害も発生しています。富士山の中腹を一周する「御中道」を現地踏査し、富士山源頭部における崩壊や溪流の現況を把握し、砂防、森林保全及び環境保全を理解する目的で行いました。

※なお、「御中道」の踏査にあたっては、富士山直轄砂防30周年記念事業実行委員会（富士宮市・富士市・芝川町・静岡県・富士砂防工事事務所）が主体となり林野庁静岡森林管理署・環境庁南関東地区自然保護事務所・山梨県・富士宮警察署・富士宮山岳会の協力を得て実施可能となりました。今回は富士宮警察署山岳救助隊にはたいへんお世話になりました。関係各位にお礼を申し上げます。

道中では各教室も行われました



森林教室（林野庁 原田次長）



砂防教室（富士砂防 氏原監督官）



フジアザミ教室（富士砂防 田中係長）



環境教室（環境庁 中谷保護官）



お助け小屋所有者（中村安彦氏）



雪崩教室（安間博士）



火山教室（静岡大 小山助教授）

左下がりの山腹をみつめて22km

富士山御中道のコース

御中道は現在「通行止め」です。落石、崩壊の危険箇所が多く、踏み跡も不明瞭で一般者の通行は不可能です。



●御庭付近



濃霧の中に

●旧御中道分岐点



●貫田塾長の講話（奥庭荘にて）



●源頭部調査工事現場



●箱荒沢



●天の浮橋 仮設のハシゴ



●開会式 富士宮市中村助役

スタート



●表大沢



ゴール

この地図は国土院地形発行の1:25,000地形図を複製しました。

「ぐるっと歩こう360度」に参加して

塾長 閉校あいさつ 貫田 宗 男
全22キロの踏破、おめでとうございます。
お腹にスペアタイヤ（贅肉）がついている状態の私にはかなり苦しくて、けっこう疲れました。次の機会にはこのスペアタイヤはぜひ置いて来たいと思っています。
富士宮山岳会、木ノ内会長および会員の皆様、また、実行委員会の皆様のリードのもと、この富士山一周を無事終える事ができまして大変感謝致しております。塾生（参加者）の皆様の代表として、スタッフの皆様へ心からお礼申し上げます。私がこのたび強く感じましたことは、普段私が訪れるヒマラヤのような非常な僻地では、砂防・防災に関する対策がほとんどなされていない所が多いことです。私自身が遠征を組んだ時にも、鉄砲水でポーターが流されたこともありましたが、ヒマラヤの近くでは、毎年モンスーン時には何百人という人が、洪水、土石流で亡くなっています。あちらにいる時には、それが仕方がないと思っていましたけれど、日本に帰ってくると安全が確保されているのが、また当たり前のようによく考えられています。
今回、富士山を一周させていただきまして、その富士山の自然を間近に学ぶとともに、皆様方が防災に非常に苦労され

ていることがよくわかりました。大沢崩れの工事現場を見まして、もう17年間もの間、ずっとやってこられている。それこそ、目からうろこが落ちるような感じがいたしまして、今までいかに無関心であったかと改めて感じています。

富士山の大沢崩れに関しては、（対策の必要性について）賛否両論、様々な意見があるようですが、我々自身が今回勉強させていただいたのを良い機会として、今後はいろいろと考えて発言していきたいと思っております。

鈴木 貴 雄（群馬県渋川市）
スタッフの皆様、どうもありがとうございました。
「御中道」は自分にとって憧れのコースでしたので、このような素晴らしいイベントに参加できたことに、大変うれしく思っています。「御中道」は千差万別、いろいろな自然の景観を楽しむことができ、富士登山とは別の良さを味わえました。ちょっと天気が悪かったのが残念でしたが、途中いろいろなお話もあり、また、富士山に関わりのある多方面の方々も参加し、充実した内容のものでした。
このような野心的で冒険的なイベントを企画し、しかも、事故もなく無事実施できたことは、やはり皆様の結束と努力、そして何よりも富士山に対する皆様の思いからくるものだと思います。

大沢扇状地第9床固工



大沢崩れから発生する土石流の土砂を、大沢川遊砂地で捕捉する目的で、遊砂地の最上流部に位置する第9床固工を補強する落差工が完成しました。

延長263メートルで2段の落差工および根固工を、6ト

ンのコンクリートブロック約1,900個を用いて設置しました。また、掘削に伴い発生した土砂は、田子の浦港の岸壁工事や富士市の道路工事に利用され、建設発生土の有効活用をすすめています。

大沢第2砂防ダム

富士宮市村山地先の弓沢川支流大沢川で、平成10年度から工事を進めていた大沢第2砂防ダムが、平成12年10月に完成しました。堤高14メートル、堤長50メートルで、流木を捕捉するスリット構造の副ダムを持つ砂防ダムで、平成7年度完成した大沢第1ダムとともに、当溪流の安全が確保されました。



一石二鳥 土石流を生かす!! 建設発生土の有効活用

富士山大沢崩れにおいては、年平均16万㎡の土石が崩れ続けています。この土砂が土石流と化して流れ出て被害を及ぼさないよう止める施設が「大沢遊砂地」です。富士砂防は除石工事から発生する土砂を河川、道路、土地改良事業などの公共施設に幅広く有効利用しております。

毎年、野面石（のづらいし）や巨石等を使った護岸整備に利用させていただいており、おかげさまで自然環境や自然景観に配慮した河川改修を進めることができます。

今後も、引き続き直轄砂防事業として大沢扇状地の堆積土砂除去工事を進めていただくとともに、発生土砂の有効利用も併せて願うものであります。

富士宮市都市整備部
河川課



観測局舎



●土石流センサー処理装置



●オプティカルフロー処理装置



●オプティカルフロー処理

土石流を監視する

大滝土石流監視観測所を整備

大沢川で自動車道が存在する最上流の大滝に、方向や焦点を遠隔操作できるCCTVカメラ2台（水位及び流速測定用）と赤外線カメラ1台、夜間照明、土石流センサー（ワイヤーセンサー1式）、土石流計測機器（水位計、流速計）監視局舎を設置し、静岡森林管理署の北山林道に沿って、電源と光ファイバーを敷設しました。従来の岩樋（終端）上流観測局（標高900m）より、約4.3km上流でいち早く土石流を検知し、霧にも対応可能な赤外線カメラを併設し、土石流の発生域により近い区間での動態を収録できます。またオプティカル・フロー解析装置により、コンピューターで表面流速がリアルタイムに計測できるようになります。



●照明ポール
左：ナトリウムランプ
右：ハロゲンランプ



●大滝流量監視カメラ

大滝
↓

●岩樋終端



●超音波水位計

大滝土石流監視観測所 平面図



●3板式カメラ



●赤外線カメラ

NEWS キャンプ砂防2000 in 富士山・狩野川

環境・砂防工学を専攻する大学生が体験的に学ぶ「キャンプ砂防2000 in 富士山・狩野川」が8月21日から30日の10日間、沼津工事との共催で千葉大2名、琉球大1名、宮崎大2名の女子大生の参加で開催されました。

まず、沼津工事での開校式ののち2日間、「狩野川台風と砂防」を中心に、砂防工事と森林間伐を体験し、23日から富士砂防に移り、五合目の御中道をスバルライン御庭～お助け小屋（1泊）～大沢源頭部の調査工事現場～富士宮登山口まで踏査、開拓農家にホームステイ（農作業、搾乳体験）、28日～30日の溪流教室等、盛りだくさんのメニューをこなしました。最終日には元NHK解説員伊藤和明氏の講演「火山と人との共存」を受講し、終了しました。

キャンプ砂防に参加しての感想

深澤 郁恵（千葉大学地球科学科3年）

決して楽であったとは言えませんが、普段の暮らしでは不可能な経験ができました。砂防地域での実際のダム建設やそこでの人々の暮らし。富士山御中道めぐりで水や電気のない場所での宿泊。この2つから沢山学びました。職業について砂防ダム建設の計画、実際の建設、その土地環境を活かした酪農、どの仕事も等しく重要であり、どれか1つが欠けても人々の暮らしが成り立たないと思いました。

また、あることが当然の水や電気のありがたさを身を持って感じました。

いろいろな人々の力により存在している小さな自分と、自分も含め、人々の生活を守ってくれる砂防ダムや放水路など大きな建造物の必要性を学び、さらに、人にも環境にも優しい建設を進めることに伴う困難も多々あると思いますが、今回この体験を通して環境を考慮した面が見られて、安心と感動を覚えました。この経験を忘れず、活かしていきたいと思っています。

木下 愛子（宮崎大学農学部1年）

キャンプ砂防に参加するまで、富士山は美しいというイメージしかなく、大沢崩れの存在や頻繁に崩れていることを知りませんでした。また、富士山と周りに住んでいる人々を守るために、危険な場所で工事をしている人々を知って驚きました。いろんな工事現場に行き、見たり、聞いたり、直接体験でき、頭で勉強するだけでなく、現場体験が大切だと思いました。

富士山の御中道を歩いたのは想像以上にきついものでした。険しい登りは、とてもきつくて何度ももうやめたいと思いました。後半は、怖いという気持ちに変わりました。今は、もう二度と登りたくないと思うけど、また何年か経ったら登りたいと思う日が来るような気がします。すごくきつかったけど、自分に自信がつけました。開拓農家の人など、いろいろな人と出会えて楽しかった。



▲天の浮橋



▲お助け小屋で自炊



▲リサイクルポットへの水やり



▲溪流教室



▲調査工事

講演会 元NHK解説員 伊藤和明氏 （火山と人との共存）



NEWS 「富士山大沢崩れと御中道見学会」を実施

大沢崩れの規模と崩壊現象と山腹の自然の豊かさ、雪崩などの脅威をご自分の目で確認した上で、砂防事業の

必要性を考えていただくため、平成元年度から毎年実施しています。現在までの延べ参加者数は1,000名を超えています。今年も7月から10月の4回の「富士山大沢崩れと御中道見学会」を実施し、多数の応募者から抽選された120名が、大沢崩れを訪れました。



▲8月23日 第2回



▲9月22日 第3回



▲10月19日 第4回

NEWS 大沢扇状地クイズウォーク

10月28日(土)、砂防や富士山についてクイズを解きながら5キロのコースを歩き、大沢扇状地遊砂地の広大さや、土砂災害と砂防工事の内容と効果について理解を深める目的で、県下の小学生を中心に158人の参加を得て「大沢扇状地クイズウォーク」を実施しました。

大沢川遊砂地の第5床固工からスタートし、途中、ボール投げやフリスビー、バックホーやダンプなど重機の操作体験、土石流ビデオや水理模型装置（施設のある場合と無い場合で対比した実験）を経て、砂防樹林帯で昼食。午後は、遊砂地内のリサイクルポット植樹を見て、その作り方を静岡大学の逢坂助教に実演説明していただきました。また、砂防樹林帯では、来年度のリサイクル苗木ポットに使うどんぐりを拾いました。ゴールのあと、人気のペットボトルロケットを打ち上げ、高得点者の表彰式を行いました。



○ 静大逢坂助教によるリサイクルポットの説明



○ 土石流模型で実演



○ 重機のデモンストレーション



○ 樹林帯補強工で昼食



○ ボール投げフリスビー



○ 樹林帯でどんぐり拾い



○ ペットボトルロケット



● どんぐりの計量



● 雨の表彰式



● スタート



● クイズ第1問

地域から、世界から富士砂防を研修・見学

今年も国内外から、多くの団体等が富士砂防及び大沢川扇状地・大沢崩れ等を訪れ、研修、見学を開催しました。

実施日	実施内容	見学者等	参加人数
4月19日(水)~21日(金)	講義、現地見学(扇状地等)	ネパールDPTC-JICA C/P研修 M.B. PRADHAN	1名、随員1名
5月25日(木)	講義、現地見学(扇状地等)	JICA火山・砂防工学集団研修(インドネシア、フィリピン等)	6名
5月26日(金)	講師派遣依頼	大富士小学校5年生	34名、教師3名
5月26日(金)	講義、現地見学(扇状地等)	富士駅南地区コミュニティ推進会	26名
6月1日(木)	現地見学(扇状地等)	富士土地改良事業推進協議会	25名
6月23日(金)	現地見学(扇状地、フジアザミ)	山宮小5年生	36名、教師
7月3日(月)	講義、現地見学(扇状地等)	日大生物自然学部森林環境保全学研究室	36名、随員2名
7月15日(土)	現地見学(扇状地)	御殿場市生涯学習	30名
7月26日(水)	現地見学(大沢崩れ、扇状地)	日本女子大OG有志	19名
7月26日(水)	現地見学(扇状地)	静岡県議会議員OB	20名
8月2日(水)	現地見学(大沢崩れ)	芝川町小学生(4~6年生)	40名、保護者
8月9日(水)	講義、現地見学(扇状地)	中学生社会参加リーダー研修会	中学生32名、引率者3名
8月25日(水)	現地見学(扇状地)	石川県砂防ボランティア協会	8名
8月29日(土)	現地見学(扇状地)	富士宮市社会科研究会	30名
8月31日(木)	現地見学(扇状地)	ラオス国研修員、富士農林事務所	ラオス2名、計5名
9月20日(木)	講義、現地見学(扇状地等)	JICA研修生(カンボジア、インドネシア等)	11名、随員2名
9月27日(水)	現地見学(大沢崩れ)	富士市原田地区連合町内会	20名
9月28日(木)	講義、現地見学(扇状地)	宇都宮大学農学部森林学科	45名
10月3日(火)~4日(水)	講義、現地見学(大沢崩れ、扇状地)	JICA国別特設「イラン砂防」	7名、随員1名
10月12日(木)~13日(金)	講義、現地見学(大沢崩れ、扇状地)	信濃川・姫川水系砂防工事期成同盟会	17名
10月17日(火)	現地見学(大沢崩れ)	富士宮農協女性部	30名
10月23日(月)	源頭部調査工事安全講習会	静岡県職員、建設業担当者	15名
10月26日(木)	現地見学(大沢崩れ)	富士宮農協女性部	35名
11月11日(土)	現地見学(扇状地)	富士建設業協会富士地区親子	45組
11月24日(金)	講義、現地見学(扇状地)	フィリピン砂防C/P研修 公共事業道路省サリ-砂防課長	1名、随員1名



▲JICA(9月20日)



▲富士市原田地区連合(9月27日)



▲宇都宮大学農学部森林学科(9月28日)



▲イラン国砂防C/P研修(10月4日)



▲信濃川・姫川水系砂防工事促進期成同盟会視察(10月12日)



▲富士宮農協女性部(10月26日)

作品のご応募ありがとうございました

—第5回富士山への手紙・絵コンクール—

第5回富士山への手紙・絵コンクールには、特にドイツやブラジル、タイなどの海外9か国からの応募を含め、全国45都道府県から7,300点を超える応募があり、10月27日に松村友視審査委員長をはじめ審査員により厳正な審査が行われました。

【手紙部門】	静岡県内	静岡県外	海外	総数
小学生低学年の部	673	4		677
小学生高学年の部	922	10	4	936
中学生の部	1,870	60	11	1,941
高校生・成人の部	182	406	2	590
合計	3,647	480	17	4,144

【絵部門】	静岡県内	静岡県外	海外	総数
幼児の部	368	17	1	386
小学生低学年の部	1,092	51	4	1,147
小学生高学年の部	1,071	51	3	1,125
中学生の部	401	37		438
高校生・成人の部	63	10		73
合計	2,995	166	8	3,169

最優秀賞に輝いた作品

中学生の部
 富士宮市立富士宮第四中学校 3年 横山 真由美
 キャンバスとパレットと色とりどりの絵の具。父にはまったく似合わない道具が彼の大きな手の中にあつた。一体なにが始まる

小学生高学年の部
 富士市立田子浦小学校 4年 出口 温子
 私は、今年の夏休みにおきなわに行きました。おきなわでタクシーに乗ったら、運転手さんが、「お姉ちゃん見てごらん。おきなわには、高い山がないから、生活するための水がたりなくて、どの家のやねにも、タンクをつけて、そのタンクの中に水をためて、それを生活するために使っているんだよ。」と、おしえてくれました。見てみたら、本当にどの家のやねの上にもタンクがありました。私はおきなわは海にかこまれていたし、水にこまることなんてないとおもっていたので、ビックリしました。お母さんが、「あつちゃん達は幸せだね。しず岡には日本一高い富士山があるんだもんね。雨がふったら、富士山がみんな、その雨をすいこんでくれてみんなにわけてくれるんだもんね。」と言いました。私は水のふべんさを感じたこともなく生活しているのは、(富士山のおかげなんだ。)と、ビックリしました。富士山、いつもみんなのためにありがとう。

小学生低学年の部
 富士宮市立大宮小学校 1年 渡邊 晋平
 ふじさんへごみをひろいにいったよ。ぼくは、すいながらばかりひろっていたよ。いしをどかしてみたらゆげみたいになすがでてきたよ。ふじさんも「あついなだなあ。」とおもったよ。ぼくは、きのしたにはいれればみずをのまなくてもすずしくなるけどふじさんは、きのしたにかくれられないから「かわいそうだ。」とおもったよ。ふんかししないでね。しんぺい



幼児の部
 富士宮市 5歳
 保坂 勇希



小学生低学年の部
 富士市 小学3年
 功刀 香奈



小学生高学年の部
 富士宮市立大富士小学校 4年
 細井 裕大



中学生の部
 富士宮市立富士根北中学校 2年
 中村 ゆみ



高校生・成人の部
 富士市鈴川西町
 大嶽 和彦

のか私には見当もつかなかった。お父さんに絵なんか描けないよ、なにか新しいことを始める父に、わざとやじを飛ばした。母は一言私に、「だまって見ていなさい」と優しく言った。真っ白な山、青い空、鮮やかな緑。すぐに富士山だと分かった。「父さんは真っ白な富士山が好きなんだ」だれも聞いていないのに、父は楽しんでうにそう言った。「おまえも富士山のような真っ白な心を持ってよ」白い絵の具をいっぱい出しながら、いつもより真剣な目つきで父は私に言った。父の背中が大きく見えた。まるで富士山の様だった。母が「なし」をむいてくれた。「おつ、初物か、味はまあまあだな」父はおいしそうにほうばっていた。まだ白がぬりきれていない富士山と、まだ熟れていない「なし」。そしてまだ成長しきれていない私が重なって胸があつくなった。私は思った。これから、ゆっくりと足していこう。私の心のキャンバスに、白い絵の具を

高校生・成人の部

神奈川県川崎市麻生区金程 長尾 松代

静岡に転勤になった彼が貴方にぞっこんです。「週末は東京に戻る」と言っていたのが全く帰ってこなくなりまし。今まで山に興味を示したことなく、ほとんどなかったのに。先日送られてきた貴方の写真、新雪をかぶった左右対称のゆつたりとした曲線美に思わず息を飲みました。シャッターを切るときの彼の興奮がトクトクと伝わってきたのです。「私も直に感激したい」と先日押しかけましたが、生憎の天気で願いは叶いませんでした。日本で一番大きな貴方を、すぐそばまで来ているのに見られないことがとても神秘的に感じられました。

「ここで一緒に暮らさないか？」
 唐突な彼の言葉。曇っていた空が目の中で揺れました。霧の奥でちゃんと聞いてくれましたよね。貴方が私たちの仲人です。

富士山の昨日、今日、明日

—富士山を見つめ、学び、富士山を愛する人々と語る—

—30周年シンポジウム—

「富士山の自然と保全」

—世界に誇れる“FUJI-YAMA”を新世紀へ伝えるために—

日時／平成12年12月22日(金) 13:00～16:00
会場／富士市 ロゼシアター 大ホール

入場
無料

富士山御中道をめぐり、専門家による各教室で富士山を学び、
パネラーと21世紀の富士山の保全のあり方を考えます。

- 13:00 開会
- 13:05 基調講演 **いま い みち こ**
今井通子 医師・登山家 演題 「中庸の徳を往く」
- 13:25 映像 「ぐるっと御中道360度」
- 13:55 シンポジウム コーディネーター 吉村 秀 實 (NHK 解説委員)
パネリスト (予定) 今井 通子 (医師・登山家) 渡辺 新 (浅間大社宮司)
増沢 武弘 (静岡大学教授) 薄木 三生 (環境庁自然保護局 南関東地区自然保護事務所長)
宮崎 緑 (千葉商科大学助教授) 岡野 真久 (中部地建局長)
- 16:00 閉会

速報

富士山大沢川で土石流発生

過去最大の土石流35万 m^3 (速報値、ダンプカー7万台分)発生。11月21日午前3時頃、大沢崩れの谷底にたまっていた土砂が、土石流となり流出。砂防施設内で捕捉され、下流域及び周辺への被害はありませんでした



情報提供のお願い

富士砂防が関係する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いいたします。

<連絡先>

富士砂防工事事務所

担当／建設専門官・大石、または調査課長・時田まで

TEL0544-27-5221 (内線516、351)

<お問い合わせ先>

■建設省富士砂防工事事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
TEL0544-27-5221

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1
TEL0544-54-0236

インターネット <http://www.cb.moc.go.jp/fujisabo/>